

摺上川・滑谷沢遡行報告

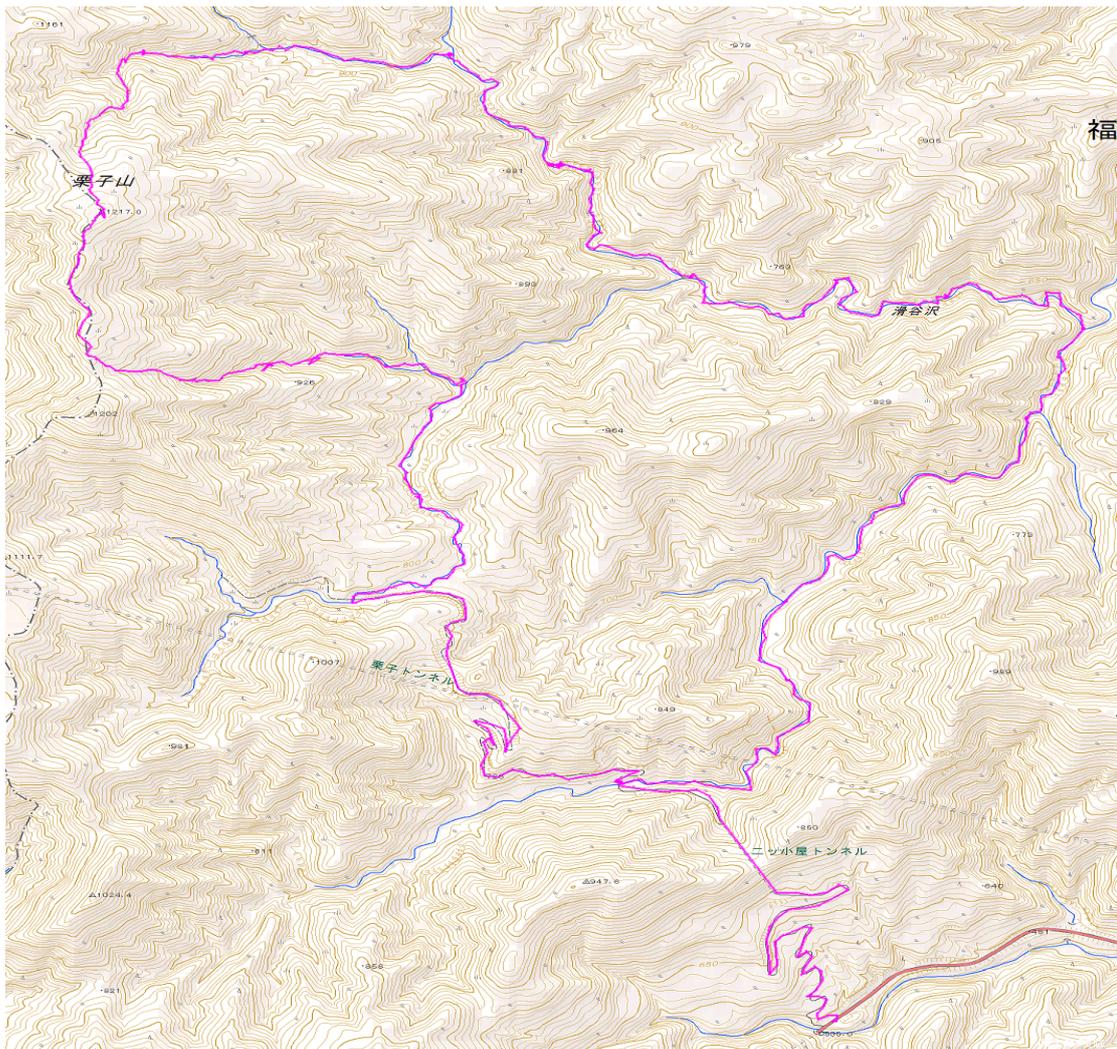
【日時】 8月3(土)~4日(日)

【天候】 8月3日(晴れ)、8月4日(曇りのち晴れ)

【行程】 8/3 千葉→東北道福島大笹生IC→十六沼公園(仮眠)→東栗子トンネルP
→二ツ小屋トンネル→鳥川橋→滑谷沢右俣→奥の二俣(泊) 歩行時間 9:30
8/4 奥の二俣→栗子山山頂→三本松沢左俣→滑谷沢左俣本流→太平橋→二ツ小屋
トンネル→鳥川橋→東栗子トンネルP→帰葉 歩行時間 8:30

【参加メンバー】 渡邊(CL)、小俣(SL)、海保、飯田(記録)

【内容】



十六沼公園で仮眠の後、早朝東栗子トンネルへ移動。トンネル前の駐車場で装備を身に付け6:00に出発。入渓ポイントの鳥川橋に向け登山道をしばらく歩いているとイノシシの大きな鳴き声が耳に飛び込んできた。この後イノシシの他に全く想定外の四つ足動物を遡行中目にするようになる。



今にも朽ち果ててしまいそうな二つ小屋トンネルを抜ければ、鳥川橋までもう少し。橋を渡って川へ降り、遡行前に装備を確認してから簡単な地図読み講習をした。当たり前だが沢には道標がない。地図が読めないと致命的なミスにつながるのだ。



滑谷沢と鳥川の出会いまでは緩やかな下降になる。水は清く、川面が光り輝き美しい。高低差はあまりないが、流れが意外に急で、川床に足をしっかり置かないと足を取られそうになることも。



鳥川から滑谷沢に入ると遡行の本番といった趣になる。深さはせいぜい膝上程度だが、流れはさらに急になり小滝も現れ始める。黙々と歩いていると目の前を黒い物体がサーっと行き過ぎる。イワナだ！淵にはイワナが湧くようにいて、釣りはド素人の自分にも釣れそうな気さえてしまうほど。だが不思議なことに釣り師には全く出会わなかった。ここまで奥深くは来ないのかも。さらに奥へ奥へと歩を進めると、釣り師に会わない代

わりに、倒木の上に謎の四つ足動物を発見！新種の福島ヤマネコか！カメラを向ける間もなくあっという間にいなくなってしまうけれど、こんなところでまさかの野良猫！どこからここまでたどり着いたのか、まるでグアム島の横井さんみたいで、ちょっとインタビューしたかったなあ〜。



ビバーク予定地に近づくにつれ、難所が出てくるようになった。滝を巻いたり、ロープを使うことも。足元が不安定な上に、疲れもあって歩くのが怪しくなってきた。



難所を超え、やっとの思いでテン場に到着した時には疲れもピーク。到着したのは15時30分頃。歩行時間にして約9時間30分。長かったです。疲れを癒す間もなく夕飯の準備に取り掛かる。釣り師の渡邊さんと海保さんは竿を取り出し再び沢へ。時間が許せば腰囊ができそうな釣果が期待できましたが、5匹釣れたところで終了。有言実行のお二人でした。





本日のメニューは小俣さん特製の酢豚丼、**天然**イワナのお造り、**天然**イワナの酒蒸し、**天然**イワナの塩焼きに**天然**イワナで出汁を取ったお味噌汁でした。どれもこれも美味しかったです。ごちそうさまでした。沢で冷やしたお酒も激うまでした。



翌日、早々に朝食を済ませ、6時に栗子山の三角点を目指して出発！ガレた川床は相変わらずで、沢が細くなるにつれて登りがきつくなる。2時間くらい歩いたでしょうか。やっと源頭部を超えたと思ったら激ヤブに突入だ！見晴らしが全くないので、頼りになるのは地図とコンパスとGPS。三角点目指して激ヤブを漕いでいたら木に巻いてあるピンクテープを発見。ピンクのテープが光り輝いて見えたのは自分だけか？テープを頼りに尾根に出た時は安心しました。栗子山の尾根道は藪に隠れ、三角点も藪の中でした。



登頂した後は、テープを頼りに稜線を歩き下降ポイントを探す。渡邊さんが的確に下降ポイントを見つけ、下山の開始。沢の下りは滑りやすく危険だ。三本松沢の下降は、疲れもあって自分には危なっかしい下山になってしまいました。滝を巻き、時に懸垂下降で沢を下る。ヨレヨレになりながらも裏見の滝に到着。

浦見の滝を過ぎたところで地図を見ると滑谷沢の左岸に向かっていることに気づき事なきを得る。そのまま歩いていたら2泊するところでした。浦見の滝を巻いて登り滑谷沢の本流に出た後は、美しいブナの森と歩きやすいナメの沢でした。これぞ癒しの沢。秋はさぞ美しいことでしょう。太平橋を過ぎ、無事駐車場に到着。生きて帰ってよかったよかった。今回の沢では何かと助けをもらいながら登ることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



登山は自己との対話であると思っている自分には、今回の沢登りはいろいろと考えさせられることが多い山行でした。次回に生かせればと思っています。

記録：いいだ